

(19) 麻酔科

2012年度の麻酔科管理の手術症例は1195件で、前年度に比較して37件増加しました。各科別では、外科355件で34件、泌尿器科327件で35件、婦人科180件で52件の増加、整形外科210件で62件、呼吸器外科60件で5件、耳鼻科32件で37件減少となっております。8月からは歯科口腔外科の手術が始まり14件行われました。5月の新病院移転に際し、入院患者、手術患者を制限したため4,5,6月は手術件数が減少し、前年度比+37と微増になったものと考えられます。

全身麻酔(硬膜外麻酔、脊椎麻酔との組み合わせを含む)は1038件、脊椎麻酔のみは147件、局所麻酔手術の管理、手術室でのペイン対応(硬膜外カテーテル挿入)等が十数件あり、緊急手術は59件でした

麻酔科業務は主として手術室での麻酔管理ですが、院内患者の疼痛管理(ペインコントロール(硬膜外ブロック))に対応しております。また4月より麻酔科医員が集中治療室長となったため、前年度までのICU入退室管理のみでなく、ICU患者の呼吸管理なども行っております。

麻酔科は常勤医師3名(全員麻酔科指導医の資格があります。)と歯科麻酔科研修医1人がおります。また、川崎病院麻酔科との連携および非常勤の麻酔科医師をお願いすることで、手術の増加に対応しております。

麻酔科管理症例は、2001年度から2003年度までは年間700件台、その後2007(925)年度を除き2008年度までは800件台に対し、2009、2010年度の1000件以上に続き、2011年度、今年度は1100件を越えました。

これからの手術件数増加を見据え、安心安全な麻酔を行っていくために、麻酔科医の増員とモニター類などの充実を進めていきたいと考えています。

(文責 麻酔科部長 小澤治子)

(20) 歯科口腔外科

2012年4月1日より慶應義塾大学医学部歯科・口腔外科学教室より医長として村岡渡が赴任し、歯科衛生士1名とともに開設準備を進め、5月1日から歯科口腔外科として新規開設いたしました。また、同時に5月1日から植野琢也医員が赴任し、2名体制で診療を開始しております。

当科ではおもに口腔外科疾患といわれる、歯だけではなく口腔、顎、顔面の一部の治療を行っております。午前中は月～金曜日、連日2名体制で外来診療を行っております。午後は、智歯埋伏抜歯などの外来手術、入院下全身麻酔手術、病棟での口腔ケアラウンド、顎関節・口腔顔面痛専門外来などを行っております。一般歯科治療(歯牙齲蝕、義歯、歯周病など)は、原則、当院他科入院患者への応急的な対応と、重篤な全身疾患により全身管理が必要な外来患者に対してのみ実施しております。

～当科でのおもな治療内容～

➤ 顎口腔外科疾患

- ・ 埋伏智歯などの抜歯

- ・ 顎口腔の炎症（顎骨骨膜炎や蜂窩織炎）の消炎治療
- ・ 顎顔面外傷（顎顔面骨折、歯牙脱臼、口腔顔面裂傷）の治療
- ・ 顎口腔腫瘍や嚢胞の治療
- 口腔粘膜疾患
 - ・ 口内炎、口腔扁平苔癬、口腔白板症、口腔ヘルペス、口腔乾燥症、舌痛症
- 顎関節症
- 口腔顔面痛
 - ・ 三叉神経痛
 - ・ 原因のはっきりしない口腔顔面の痛み
- デンタルインプラント
 - ・ 顎骨に人工歯根を埋入し歯冠を補綴する治療
- 顎変形症
 - ・ 矯正歯科と連携した下顎前突症（うけ口）などの外科的歯列顎矯正手術
- 口腔ケア（周術期口腔機能管理）
 - ・ 誤嚥性肺炎や緩和ケアにて入院中の患者および化学療法、放射線療法、全身麻酔手術を受ける患者の専門的口腔ケア

などの治療をおこなっております。

昨年度の外来での初診患者数は、およそ 748 名でした。その内、地域歯科医師会、医師会などからの紹介患者数は、およそ 249 名でした。病棟からの口腔ケアおよび歯科治療を含めた診療依頼が 238 名でした。

当科への入院患者数は 19 人で、全身麻酔手術目的が 14 例、蜂窩織炎 3 例、下顎骨骨髄炎 2 例でした。手術室での全身麻酔症例の内訳は、顎骨嚢胞 10 例、下顎骨骨折 2 例、頬粘膜腫瘍 2 例でした。また手術室での局所麻酔手術は、インプラント手術が 2 例、骨増生を伴うインプラント手術が 1 例でした。

初年度は、院内他科、看護部、地域医療部、その他スタッフをはじめ、地域歯科医師会、医師会などに多大なるご支援をいただき無事にスタートを切ることができました。

今後も、さまざまな口腔外科疾患に対応できる川崎中部および横浜東部地域の紹介型 2 次医療機関として認知していただけるよう地域医療に貢献していきたいと考えております。

（文責 歯科口腔外科医長 村岡 渡）